

ジャパン・ソサエティ東日本大震災復興基金
(ローズファンド) 事務局

この度、ジャパン・ソサエティ東日本大震災復興基金（ローズファンド、以下ローズファンド）の第一期助成事業として、30 件の申請の中から 8 件の事業に総額 1,397 万円の助成を決定しました。

本助成事業自体の広報から申請締切まで短い期間であったにもかかわらず、岩手、宮城、福島各県より、被災地の実態にあわせた多様な申請を頂きました。そこに垣間見られる各地の状況はまだまだ復興の端緒に着いたばかりというものでした。

様々な事業の申請があったなか、仮設住宅での孤独死防止や在宅被災者支援など、命にかかわる深刻な状況にある被災者を支える事業に優先して助成を行うことにしました。その他、地元の人々が主体となり、地域の活性化や復興計画の策定を図る事業、或いは人々の暮らしの質を高め少しでも穏やかな日常を取り戻すことをめざした事業など、人々の命や暮らしの質を高める取組みを評価し、助成を決定しました。その他、被災地域を面的にとらえ、広範なエリアで活動している団体や各種取組みを後押しする、支援センター等の拠点の立ち上げ事業も復興を加速させる取組みとして重視し、助成を決定しました。

1 年以上の活動実績を有している団体への支援の他、震災後に立ち上がった団体への支援の枠組みもローズファンドの特色です。被災地域における新たな市民活動の芽をはぐくみ、組織基盤強化を図ることを目的として「復興支援事業における協働促進のための助成（プログラム B）」を設けました。これは、十分な専門性や活動実績を有する団体が被災地域に新たに設立された団体の活動を支援し、事業の質を高めるため、経験やノウハウ等の専門性を移転するためのものです。また、震災前は、被災 3 県以外を主な活動場所とする団体が被災地支援事業から撤退する時期にあわせ、地元団体等へ経験や技術等の移転を促進する取組みという側面もあります。

このような震災後に立ち上がった団体支援の枠組みへは 15 件の申請があり、被災地域に市民活動の芽がたくさん生まれていることが改めて浮かび上がりました。結果的に、このプログラム B における助成決定は 4 件に留まりましたが、ローズファンドの助成を機に、地元発の新しい団体が実績や専門性を有する団体と協働することで組織基盤を整え、活動を発展させていくことを期待しています。

東北地方の各所から雪のニュースが届き、津波による甚大な被害を受けた沿岸地域にも、本格的な厳しい冬が到来しています。東日本大震災によって家を失った人々の住環境整備や、冬対策工事の進捗、仕事を失った人々の雇用対策の取組みがメディアに取り上げられる一方で、現在も未だ瓦礫が残る地域があり、人々の生活の復興はまだまだその途上にあります。

ローズファンドは、今後も、英国で寄付をしてくださった市民の想いや願いを活かしながら、助成金支援がより必要とされる団体を中心に、被災地域の復興を加速させ、人々の命や暮らしに寄り添う事業を支援する基金でありたいと考えます。

ローズファンドは、被災地に所在する団体が行う復興支援事業に対して資金サポートを行うことを目的とした復興支援事業助成（プログラム A）と、それに加えて、被災地域における新たな市民活動の芽を育み、組織基盤強化を図ることを目的とした復興支援事業における協働促進のための助成（プログラム B）のふたつのプログラムで公募を行いました。プログラム A に 12 件、プログラム B に 18 件の計 30 件の申請がありました。また、ローズファンドが重視したい助成テーマとして二つの共通テーマを設定するとともに、被災 3 県の地域特性や被災状況を鑑み、地域別にも助成テーマを設定しました。